部局名　統合新領域学府ユーザー感性スタディーズ専攻

ユーザー感性スタディーズ専攻プログラムの３ポリシー

１．新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	ユーザー感性スタディーズ専攻では、芸術工学、人間環境学を中心にデザイン学、芸術学、感性科学、教育学、心理学、社会学、文化人類学、アーバンデザイン学、感性工学などといった諸学問領域が、ユーザー（自然科学、社会科学、人文科学や技術の知を役立てる個人、グループ、組織など）の感性的な側面を重視しながら融合することにより、社会課題の解決策や個人と社会の満足（ウェルビーイング）を深い人間理解に基づいて主体的に創造できる越境型の新しい高度専門人材の育成を目指している。 以下の学修目標を達成した者、なかでも特に感性学分野の専門的素養を十分に身につけている学生については修士（感性学）、特に芸術工学分野の素養を十分に身につけている学生については修士（芸術工学）、特に工学分野の素養を十分に身につけている学生については修士（工学）を授与する。博士課程については以下の学修目標を達成した者には、博士（学術）を授与する。なかでも特に感性学分野の専門的素養およびそれをふまえた応用力を十分に身につけている学生については博士（感性学）、特に芸術工学分野の専門的素養およびそれをふまえた応用力を十分に身につけている学生については博士（芸術工学）の学位を授与する。
参照基準	日本学術会議分野別参照基準-心理学、地域研究、サービス学、社会学、社会福祉学分野に準拠 ・Subject Benchmark Statement (UK) 1) education studies (2015) 2) early childhood studies 3) art and design
学修目標	【修士課程】 **A. 主体性・協働** A-1: 多様な知を有する他者と協働し、諸学問領域に関する知識・能力を相互に享受しあい主体的に学び続ける姿勢を身に付けている。 A-2: 実社会における現実の課題解決に向けて、チームでの各個人の役割を認識しあい主体的に関わり、取り組むことができる。 **B. 知識・理解**

	B-1: 感性的な側面を重視しながら様々な専門性を融合させるために必要な既存の学問分野の知識や概念を、本人の専門分野や関心領域を活かし説明することができる。 B-2:ファシリテーション、プロジェクトマネジメント、プレゼンテーションなどの他者との協働の際に必要な基礎的な知識を習得し、説明できる。 B-3：人間理解、共生、共創科目に関する本人の専門分野および周辺関連領域の高度な知識を習得している。 C. 能力 C-1:（適用・分析） C-1-1: ファシリテーション、プロジェクトマネジメント、プレゼンテーションなどの他者との協働の際に必要な基礎的な知識を活かし専門性の異なる他者との協働関係を構築できる。 C-1-2: 協働体制のもとにおいては、専門性の異なる他者に共感し、受容する姿勢を維持しながら、各課題の解決に臨むことができる。 C-1-3:人間理解、共生、共創科目に関する高度な知識・能力を統合して活用することができる。 C-2: （評価・創造） C-2-1: 諸学問領域の理論や方法を応用して、人・もの・環境のより豊かな関係性を想像し、必要なプロセスの組み立てができる。 C-2-2: マネジメントの理論や方法を応用して、専門領域の異なる人々との協働体制を創造できる。 C-2-3: さまざまな社会における現実の課題に対して、知識・能力を応用して解決策を主体的に提案することができる。 C-2-4:コミュニケーション力、共感力をもって、さまざまな社会における現実の課題に寄り添い、場の形成・運営に参与することができる。 D. 実践 D-1:企業や地域、各共同体などにおける課題解決の為の調査・研究ができる。 D-2:企業や地域、各共同体などが抱える各種課題に対し、真摯に向き合い解決のための糸口を、他者を巻き込みながら模索できる。 D-3:実践的場面における現実的課題にチームで取り組み、問題発見・仮説設定・集団的な知的創造・解決策提示の一連のプロセスを主導することを通して、社会との新しい関係を構築することができる

	博士後期課程 A. 主体性・協働 A-1: 多様な知を有する他者と協働し、諸学問領域に関する知識・能力を相互に享受しあい主体的に学び続ける姿勢を身に付けている。 A-2: 実社会における現実の課題解決に向けて、チームでの各個人の役割を認識しあい主体的に関わり、取り組むことができる。 B. 知識・理解 B-1: 「感性」にかかわる学問を修めた博士（Ph.D.）として、高度な専門性と広範で深い文化的・知的素養に基づいて世界を認識し、説明することができる。 B-2: 「感性」という側面を意識しながら本人が専門とする学問領域の知識や概念を説明することができる。 B-3: 国際性と社会性を兼ね備えた専門的な知識を有する。 C. 能力 C-1:（適用・分析） C-1-1:「感性」という側面を意識しながら本人が専門とする学問領域と他の学問領域とを融合し、幅広い知識を理解・応用しながら、研究・実践に取り組むことができる。 C-1-2:融合のために必要な科学・芸術・文化・デザイン・コミュニケーション等について深く理解するために必要な分析、解釈、鑑賞を行うことができる。 C-2: （評価・創造） C-2-1: 諸学問領域の理論や方法を応用して専門性を相乗的に強化する融合を通して、より高度な教育研究の成果を創出することができる。 C-2-2:マネジメントの理論や方法を応用して、専門領域の異なる人々との協働体制を創造し、専門性を相乗的に強化する融合ができる。 C-2-3: さまざまな社会における現実の課題に対して、知識・能力を応用して解決策を主体的に提案し、牽引することができる。 C-2-4:コミュニケーション力、共感力をもって、さまざまな社会における現実の課題に寄り添い、場の形成・運営においてリーダーシップを発揮できる。 D. 実践 D-1:国際社会が求める融合型の研究能力及び実践能力を持つ。 D-2: 大学や企業などの研究機関における実践型研究者あるいは教育者、即戦力としての活躍が十分に期待できる。

	D-3：企業や地域、各共同体などが抱える各種課題に対し、真摯に向き合い解決のための糸口を、他者を巻き込みながら開拓できる。 D-4: 国際社会に必要とされる問題解決型のプロジェクトチームのリーダーとして、チームと協働しながら、指導的立場で遂行することができる。 D-5：実践的場面における現実的課題に対し、融合力を活かした新たな科学、社会、経済を築いていくための企画力、コミュニケーション力、協働力、指導力などを備えている。 D-6： 即戦力となる「高度実践調査」、「高度実践企画」及び「高度実践研究能力」を持つ。

２．新カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

修士課程では、各学問領域相互を相乗的に強化する融合をはかる教育研究を先導的に展開するために、「社会的課題に目を向けた実践型教育の実施」というミッションを設けている。

問題の発見・分析・解決を主体的に行う姿勢を有し、本人の専門領域の深化とともに他の専門領域との融合に意識的に取り組めるよう、初期に、ファシリテーション、プロジェクトマネジメント、プレゼンテーションなどを学ぶ「融合・越境リテラシー」、相乗的な融合を目指す各学問領域の基礎知識・理論を習得する「ユーザー感性スタディーズ概論」を配置する。また、融合のあり方（ケース）を学び、主体的に融合を主導できるよう「融合・越境型 PTL（プロジェクトチームラーニング）」を配置し、感性の視点から学生や教員の多様な専門性を融合させ、企業や地域社会や自治体などと協同で様々な価値創造を行う実践を通し、社会問題の解決に取り組むことで融合のあり方をプロジェクトを通して体得する。さらに、本人の専門領域とは異なる学問領域への視座を深め、本人の専門領域と他の学問領域との様々な関わりの可能性を模索するために「越境ゼミ」を配置し、指導教員以外の複数の教員のゼミに参加することで、感性を主軸に異なる専門分野の考え方や研究の方法を学び、専門の異なる人に自分自身の研究を伝え、ディスカッションを行うコミュニケーション力の強化を図る。その他に各学府で開講されている授業の中から本人の専門に応じた専門性を深化できる科目を「ユーザー感性スタディーズ推奨科目」として設定する。

博士後期課程では、各学問領域相互を相乗的に強化する融合をはかる教育研究を先導的に展開するために、「社会的課題に目を向けた実践型教育の実施」というミッションを設けている。

本人の専門領域とは異なる学問領域を相乗的に融合し、それらをさまざまな社会における現実の課題に対して還元するために「上級融合・越境型 PTL 演習」を配置する。企業や地域社会や自治体などと協働で価値創造を行い、これらの協働を通して修士課程の融合・越境型 PTL の指導的な役割を担うことで、PTL を高度に実践するためのマネジメント能力、リーダーシップを養う。また、修士の学生への指導的役割を担い、融合型研究を牽引するために「上級越境ゼミ」を配置し、感性を主軸に異なる専門分野の考え方や研究の方法を学び、専門の異なる人に自分自身の研究を伝え、ディスカッションを行うことで研究を深めるとともに、修士学生の研究への指摘等を行うことで融合型研究を体系的にとらえる視座を涵養する。

【コースワーク】

〈修士課程〉

必修科目として、「ユーザー感性スタディーズ基礎科目（ユーザー感性スタディーズ概論、越境・融合リテラシー）」、「越境ゼミ」、「越境・融合 PTL」、「特別研究」を配置する。また、ユーザー感性スタディーズ推奨科目として、他学府連携で開講される関連領域の科目を推奨し、推奨科目の組合せにより専門性を強化し、それぞれの社会での活躍やキャリア形成等の将来像に合わせ、その他の自由に履修できる科目による補完を行うことで、効果的な学習計画を立てられる構成としている。

〈博士後期課程〉

「上級融合・越境型 PTL」、「上級越境ゼミ」「ユーザー感性スタディーズ特別研究」「ユーザー感性スタディーズ推奨科目」を配置し、融合力、マネジメント力、リーダーシップ等の各専門性における能力を高め、融合型研究の推進能力の開拓と修得を促す。

【研究指導体制】

〈修士課程〉

入学時より指導教員を割り当て、計画的な研究指導を行い、修士論文作成を行う。「特別研究（8 単位）」として単位認定される。越境ゼミにより指導教員以外の教員からの継続的な研究へのアドバイス体制が担保されている。また、進捗発表会を行い、複数教員からの指摘・アドバイスを受ける機会も設ける。

〈博士後期課程〉

入学時より主指導教員を割り当て、計画的な研究指導を行い、博士論文作成を行う。「ユーザー感性スタディーズ特別研究（12 単位）」として単位認定される。上級越境ゼミにより指導教員以外の教員からの継続的な研究へのアドバイス体制が担保されている。また、進捗発表会を行い、複数教員からの指摘・アドバイスを受ける機会も設ける。

【学位論文審査体制】

〈修士課程〉

提出された修士論文および修士論文発表会における発表に基づいて、プログラム実施委員会がプログラム担当教員等を構成員として設置する評価委員会において審査する。

〈博士後期課程〉

提出された博士論文および最終試験における発表に基づいて、プログラム実施委員会がプログラム担当教員や関連する分野の研究者等を構成員として設置する審査委員会(博士号)において審査する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証)】

カリキュラムの見直しを担当するのは、学府内の複数の専攻にまたがる教育システム改革ワーキンググループおよび自己点検・評価ワーキンググループであり、授業評価アンケートなどの資料にもとづき、FD 研修会を開催し、カリキュラムの妥当性について議論する体制を整えている。

《アセスメント・プラン》

〈修士課程〉

履修科目の成績・単位認定および、2 年間の研究活動の結果として提出された修士論文の審査の結果に基づいて行う。

〈博士後期課程〉

3 年間の研究活動の結果として提出された博士論文の審査の結果に基づいて行う。

３．新アドミッション・ポリシー

求める学生像	【修士課程】 ユーザー感性スタディーズ専攻では、次のような資質と問題意識を持つ人材を求めている。 ① 専攻の専門に係わる諸問題を学際的に解決し社会に成果を還元したいという意欲を有していること ② 社会において先導的役割を果たしたいという意欲を有していること ③ 柔軟な発想力, 基本的なコミュニケーション能力, 幅広い教養を有していること ④ 社会人にあっては, 企業や地域社会での経験, 問題意識を大学において理論的に進化・体系化させたいという意欲を有していること

	【博士後期課程】修士課程入学希望者に求める上記に加え以下の態度・資質を持ち合わせる学生を積極的に受けいれる。 研究において収集した知見をまとめて論理的な文章にすることができること。研究テーマの追求に強い意欲を持ち、自律的に研究活動を推進することができること。 ⑤　研究において収集した知見をまとめて論理的な文章にすることができること。 ⑥　研究テーマの追求に強い意欲を持ち、自律的に研究活動を推進することができること。
入学者選抜方法との関係	【修士課程】 志望理由書、研究計画書などの提出書類および複数教員による個人面接、グループディスカッション、小論文により選抜を行う。提出書類により主に上記①を、個人面接、グループディスカッション、小論文により上記①②③を確認し、本人の意欲および研究が可能な程度の学力を有しているかを採点し、合否判定を行う。また、社会人選抜においては、提出書類及び個人面接、グループディスカッション、小論文において上記④の視点も加えた合否判定を行う。 【博士後期課程】 博士後期課程の選抜では、修士論文および研究計画書等の提出書類に基づき、複数教員による個人面接により選抜を行う。提出書類により主に上記⑤、個人面接、により上記①～⑥の資質・態度を身に着けているかを採点し、合否判定を行う。